

1. 輸出における現状と課題

大吉農園では、令和元年11月からキャベツのシンガポール向け輸出を開始し、現在は、シンガポールの大手小売店向けを中心に、タイ・香港・台湾に輸出先国を拡大している。今後はキャベツやカボチャのさらなる輸出拡大に向けて、生産体制の強化や販売促進に取り組む。

【現状】

- 鹿児島県庁・農水省：GFPと連携した輸出取組を進めており、令和元年11月からキャベツのシンガポール向け輸出を開始。同年11月・12月で輸出額は270万円。
- 生産面においてはJGAP及びASIAGAPを取得・実践しており、（一社）全国植物検疫協会から共有された各国における残留農薬基準値のリストを基に、農薬の不使用・不検出を徹底し、輸出時の検疫条件のクリアと味・品質の良い農産物生産を両立。
- 自社での輸出だけでなく、鹿児島県内の生産者のGAP取得支援・輸出産地づくり支援も積極的に行っており、地域単位での野菜の輸出産地づくり・鹿児島県内港湾を活用した輸出物流ルート構築（複数品目の混載）を積極的に推進中。

【課題】

- GAPに基づく生産工程管理が全従業員に徹底されるよう教育体制の確立を図るとともに、地元活性化のため、女性でも働きやすい職場環境の整備に努める必要。
- 近年の気象変化に対応するため、キャベツの生産安定に向けた取組が必要。
- 県内港湾を活用した産直輸出体制の構築により、価格競争力と温度が不安定な輸送時間の低減による鮮度保持効果を高めるとともに、梱包資材の改良等により、長期輸送に耐える輸送手段を確立する必要。
- 更なる消費拡大に向けて、日本での食べ方や現地消費者のニーズに合った食べ方を現地に提案するなど、更なる販促活動が必要。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・物流体制の強化】

- キャベツ及びカボチャの輸出産地体制整備の取組として、生産工程に係る従業員教育を強化
- 鹿児島県における更なる輸出産地形成を推進すべく、GAP認証取得に係る他農家の支援を実施
- 近年の気象変化に対応するため、キャベツの品種比較を実施
- 物流効率化（国内輸送費用の削減）を図るべく、地元港活用の推進や輸出向け梱包資材等を開発
 - ✓ 大吉農園においては、GAP取組にあげられるような生産工程管理の徹底による安心・安全な生産がなされていることが強みである。
 - その強みを維持すべく、特に新規参入者向けの教育を効率化・高度化することを目指し従来の教育方法を見直し・体系化する。
 - それにより、他産地へのGAP取得支援等の際に横展開もしやすくなる。
 - ✓ 主婦でも働きやすい職場環境づくり（好きな時間帯での勤務、また適宜内職も可能とする制度）により地元女性の従業員を多く雇用し教育することで、鹿児島県の一次産業の活性化・底上げに繋がる。

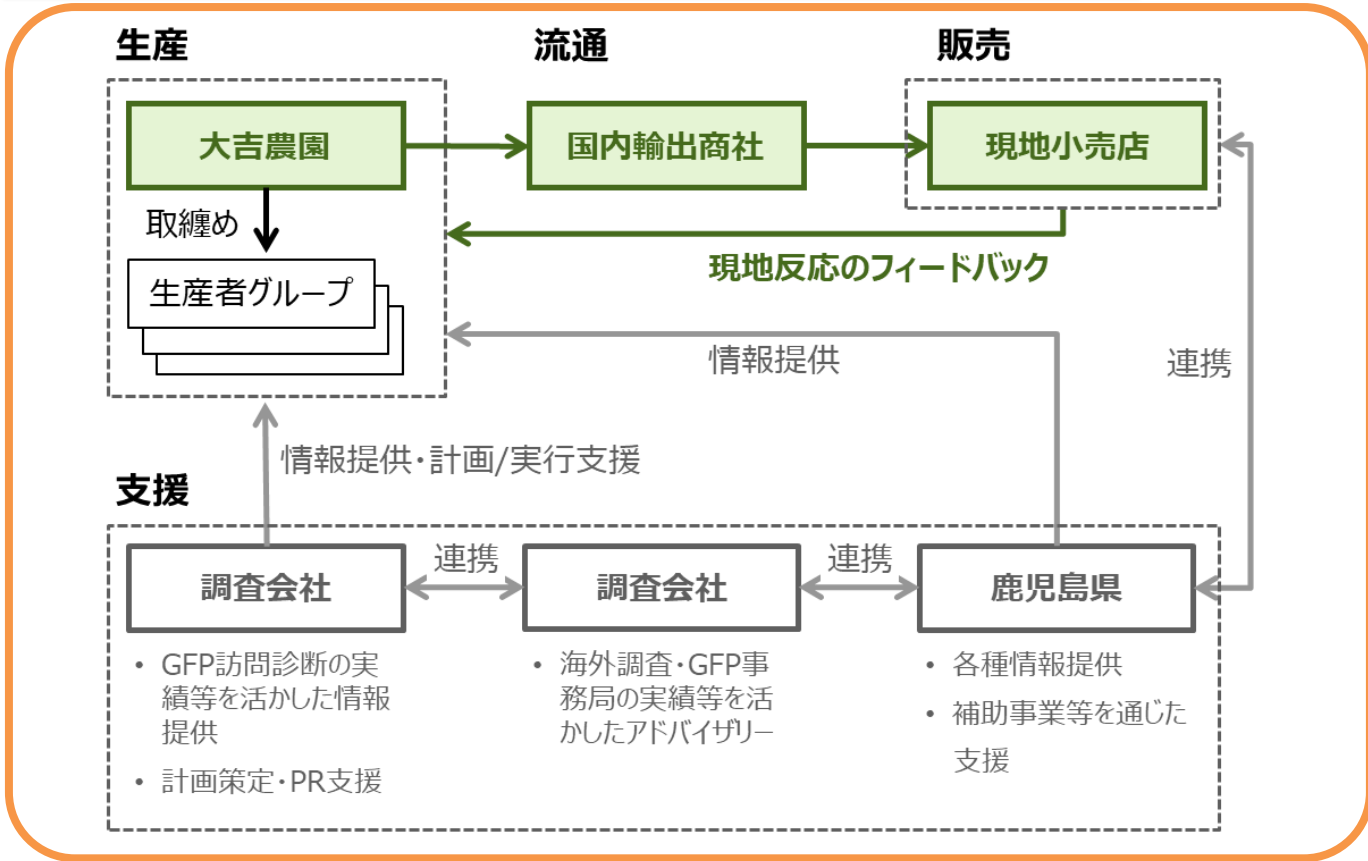
【商品の差別化・販売促進の実施】

- マーケットインの考え方に基づく輸出向け生産の拡大・効率的な物流を構築すべく、現地ニーズに対応した販促活動及びニーズの掘り起こしを実施
 - ✓ キャベツをさらに輸出拡大するとともに、カボチャの輸出を拡大するためには、競合商品（他国・国内他産地におけるキャベツやカボチャ）との差別化がとりわけ重要である。
 - そのため、日本とは違う食文化を持つ海外現地で受け入れられやすいメニュー開発を実施する。また、鹿児島県産キャベツ及びカボチャの食べ方の普及に向けたPR動画等の販促資材を制作する。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社 大吉農園、品目：キャベツ，カボチャ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

<キャベツ>

	現状（令和3年度）	目標年（令和9年度）
輸出額	13,900千円	65,000千円
輸出先国・地域	シンガポール・香港・台湾・タイ・マレーシア・マカオ	シンガポール・香港・マレーシア・ブルネイ
生産量	1,000t	1,500t

<カボチャ>

	現状（令和3年度）	目標年（令和9年度）
輸出額	252千円	22,000千円
輸出先国・地域	香港	シンガポール・香港・マレーシア
生産量	25t	100t